

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	:	イミノクタジン三酢酸塩
SDS コード	:	D7-06
供給者の会社名称	:	
林純薬工業株式会社		
住所	:	大阪府大阪市中央区内平野町 3 丁目 2 番 12 号
電話番号	:	06-6910-7305
E-mail	:	shiyaku_kikaku@hpc-j.co.jp
URL	:	https://direct.hpc-j.co.jp/
緊急連絡電話番号	:	06-6910-7305
推奨用途	:	試験研究用
使用上の制限	:	試験研究以外の用途には使用しない事。人体又は動物用の医薬品、食品、家庭用品、化粧品等には使用しない事。環境中に使用しない事。

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

物理的危険性	爆発物	区分に該当しない	
	可燃性ガス	区分に該当しない	
	エアゾール	区分に該当しない	
	酸化性ガス	区分に該当しない	
	高压ガス	区分に該当しない	
	引火性液体	区分に該当しない	
	可燃性固体	分類できない	
	自己反応性化学品	区分に該当しない	
	自然発火性液体	区分に該当しない	
	自然発火性固体	分類できない	
	自己発熱性化学品	分類できない	
	水反応可燃性化学品	区分に該当しない	
	酸化性液体	区分に該当しない	
	酸化性固体	区分に該当しない	
	有機過氧化物	区分に該当しない	
	金属腐食性化学品	分類できない	
	鈍性化爆発物	区分に該当しない	
	健康有害性	急性毒性 (経口)	区分 3
		急性毒性 (経皮)	区分 4
		急性毒性 (吸入: 気体)	区分に該当しない
急性毒性 (吸入: 蒸気)		分類できない	
急性毒性 (吸入: 粉じん、ミスト)		区分 1	
皮膚腐食性/刺激性		分類できない	
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性		分類できない	
呼吸器感作性		分類できない	
皮膚感作性		区分に該当しない	
生殖細胞変異原性		区分に該当しない	
発がん性		区分 2	

環境有害性	生殖毒性	区分 1B
	特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	区分 1 (呼吸器系)
	特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	区分 3 (麻酔作用)
	特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	区分 1 (雄性生殖器, 肝臓, 腎臓)
	誤えん有害性	分類できない
	水生環境有害性 短期(急性)	区分 1
	水生環境有害性 長期(慢性)	区分 1
	オゾン層への有害性	分類できない

絵表示
(GHS JP)



GHS06



GHS08



GHS09

注意喚起語 (GHS JP)

: 危険

危険有害性 (GHS JP)

: 飲み込むと有毒 (H301)
 皮膚に接触すると有害 (H312)
 吸入すると生命に危険 (H330)
 眠気又はめまいのおそれ (H336)
 発がんのおそれの疑い (H351)
 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ (H360)
 臓器の障害 (呼吸器系) (H370)
 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害 (雄性生殖器、肝臓、腎臓) (H372)
 長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性 (H410)

注意書き (GHS JP)

安全対策

: 使用前に取扱説明書を入手すること。(P201)
 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。(P202)
 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。(P260)
 取扱い後は手、前腕および顔をよく洗うこと。(P264)
 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。(P270)
 屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。(P271)
 環境への放出を避けること。(P273)
 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。(P280)
 [換気が不十分な場合]呼吸用保護具を着用すること。(P284)

応急措置

: 飲み込んだ場合: 直ちに医師に連絡すること。(P301+P310)
 皮膚に付着した場合: 多量の水で洗うこと。(P302+P352)
 吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。(P304+P340)
 ばく露又はばく露の懸念がある場合: 医師に連絡すること。(P308+P311)
 直ちに医師に連絡すること。(P310)
 気分が悪いときは、医師の診察/手当てを受けること。(P314)
 口をすすぐこと。(P330)
 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。(P362+P364)
 漏出物を回収すること。(P391)

保管

: 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。(P403+P233)
 施錠して保管すること。(P405)

廃棄

: 内容物/容器を国際、国、都道府県又は市町村の規則に従って廃棄すること。(P501)

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 : 化学物質

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	化学式	官報公示整理番号		CAS RN
			化審法番号	安衛法番号	
イミノクタジン三酢酸塩	≥95%	C24H53N7O6	(2)-1781	既存化学物質	57520-17-9

上記濃度又は濃度範囲は、規格値ではありません。

上記濃度又は濃度範囲に記載の%は、個別表記があるものを除き、全て重量%となります。

4. 応急措置

応急措置

- 吸入した場合 : 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
直ちに医師に診断／手当てを受けること。
- 皮膚に付着した場合 : 汚染された衣類を直ちに全て脱ぐこと。
多量の水と石鹼で優しく洗うこと。
直ちに医師に診断／手当てを受けること。
- 眼に入った場合 : 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用してい
て容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
直ちに医師に診断／手当てを受けること。
- 飲み込んだ場合 : 口をすすぐこと。
直ちに医師に診断／手当てを受けること。

5. 火災時の措置

- 適切な消火剤 : 水噴霧、耐アルコール泡消火剤、乾燥粉末消火剤、二酸化炭素、砂
- 使ってはならない消火剤 : 強い水流は使用しない。
- 爆発の危険 : 加熱により、容器が爆発するおそれがある。
- 火災時の危険有害性分解生成物 : 火災時に刺激性もしくは有毒なフュームまたはガスを発生する。
- 消火方法 : 着火した場合、初期消火は、火元(燃焼源)を断ち、適切な消火剤を用いて一挙に
消火する。
周辺火災の場合、移動可能な容器は速やかに安全な場所に移す。
移動不可能な場合、容器及び周囲の設備等に散水し、冷却する。
消火に使用した水が環境中に流出しないようにする。
消火後も大量の水を用いて容器を冷却する。
- 消火時の保護具 : 消火作業の際は、空気呼吸器を含め防護服(耐熱性)を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置

- 一般的措置 : 立ち入る前に、密閉された場所を換気する。
関係者以外の立ち入りを禁止する。
直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。
作業の際には、吸い込んだり、眼、皮膚及び衣類に触れないように、必ず適切な
保護具を着用し、風下で作業行わない。

環境に対する注意事項

- 環境に対する注意事項 : 環境への放出を避けること。
下水道や公共用水域への侵入を防ぐ。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

- 浄化方法 : 粉塵を発生させないように注意し、できるだけ掃き集めて密閉できる空容器に回収
し、安全な場所に移動する。
回収跡は多量の水で洗い流す。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策 : 吸い込んだり、眼、皮膚及び衣類に触れないように、適切な保護具を着用して作業する。

漏れ、あふれ、飛散しないように取扱い、ミスト、蒸気の発生を少なくし、換気を十分にする。

安全取扱注意事項 : この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

取扱い後はよく手を洗いうがいをする。

作業所の十分な換気を確保する。

接触、吸入又は飲み込まないこと。

接触回避 : 長時間または反復の暴露を避ける。

保管

安全な保管条件 : 施錠して保管すること。

直射日光を避け、換気の良い場所に保管する。容器を密閉し、火気、熱源より遠ざける。

安全な容器包装材料 : 遮光した気密容器。

技術的対策 : 適用法令を遵守する。

保管温度 : 冷蔵保管: 2~10°C

8. ばく露防止及び保護措置

設備対策 : 取扱場所での発生源の密閉化、または局所排気装置、全体換気装置の設置。取扱場所の近くに安全シャワー、洗眼設備を設け、その位置を明瞭に表示する。

保護具

皮膚及び身体の保護具 : 保護服、保護長靴、保護前掛け

眼の保護具 : 保護眼鏡(普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)

手の保護具 : 保護手袋

呼吸用保護具 : 防塵マスク

9. 物理的及び化学的性質

物理状態 : 固体

外観 : 粉末

色 : 白色

臭い : 酢酸臭

pH : データなし

融点 : 140.3 - 145.6 ° C

凝固点 : データなし

沸点 : データなし

引火点 : データなし

自然発火点 : データなし

分解温度 : 190 ° C

可燃性 : データなし

蒸気圧 : $\leq 3.98 \times 10^{-4}$ Pa (23°C)

相対密度 : データなし

密度 : 1.11 g/cm³ (22°C)

相対ガス密度 : データなし

溶解度 : 水: 550 g/l (20°C)

n-オクタノール/水分配係数(Log Pow) : < -2 (20°C)

爆発限界 (vol %) : データなし

動粘性率 : データなし
 粒子特性 : データなし

10. 安定性及び反応性

反応性 : データなし
 化学的安定性 : 通常の取扱い条件では安定である。
 危険有害反応可能性 : データなし
 避けるべき条件 : 日光、熱
 混触危険物質 : データなし
 危険有害な分解生成物 : 窒素酸化物

11. 有害性情報

イミノクタジン三酢酸塩	
急性毒性 (経口)	【分類根拠】(1)～(4)より、区分 3～区分 4 上限付近の LD50 値が得られており、有害性の高い区分を採用し、区分 3 とした。【根拠データ】(1)ラット(雄)の LD50: 220 mg/kg (食安委 農薬評価書 (2019)) (2)ラット(雌)の LD50: 187 mg/kg (食安委 農薬評価書 (2019)) (3)ラット(雄)の LD50: 326 mg/kg (食安委 農薬評価書 (2019)) (4)ラット(雌)の LD50: 300 mg/kg (食安委 農薬評価書 (2019))
急性毒性 (経皮)	【分類根拠】(1)～(4)より、区分 4 とした。【根拠データ】(1)ラット(雄)の LD50: > 1,500 mg/kg (食安委 農薬評価書 (2019)) (2)ラット(雌)の LD50: 1,400 mg/kg (食安委 農薬評価書 (2019)) (3)ラットの LD50: > 826 mg/kg (食安委 農薬評価書 (2019)) (4)ラットの LD50: > 826 mg/kg (食安委 農薬評価書 (2019))
急性毒性 (吸入:気体)	【分類根拠】GHS の定義における固体であり、区分に該当しない。
急性毒性 (吸入:蒸気)	【分類根拠】データ不足のため分類できない。
急性毒性 (吸入:粉末)	【分類根拠】(1)より、区分 1 とした。【根拠データ】(1)ラットの LC50(4 時間): 0.028 mg/L(ミスト) (食安委 農薬評価書 (2019))
急性毒性 (吸入:ミスト)	データなし
皮膚腐食性/刺激性	【分類根拠】データ不足のため分類できない。なお、(1)の知見は製剤の成分が不明のため、分類に用いなかった。【参考データ等】(1)ウサギを用いた皮膚刺激性試験において、本物質 25%製剤を適用したところ、中程度の刺激性がみられたとの報告がある (食安委 農薬評価書 (2019))。
眼に対する重篤な損傷又は刺激性	【分類根拠】データ不足のため分類できない。なお、(1)の知見は製剤の成分が不明のため、分類に用いなかった。【参考データ等】(1)ウサギを用いた眼刺激性試験において、本物質 25%製剤を適用したところ、投与 1 日後から角膜混濁、虹彩充血、結膜発赤等がみられ、眼粘膜に対して可逆性の重度の刺激性がみられた (食安委 農薬評価書 (2019))。
呼吸器感受性	【分類根拠】データ不足のため分類できない。
皮膚感受性	【分類根拠】(1)より、ガイダンスに従い、区分に該当しない。【根拠データ】(1)モルモットを用いた Maximisation 試験において、結果は陰性であった (食安委 農薬評価書 (2019))。
生殖細胞変異原性	【分類根拠】(1)～(4)から、区分に該当しない。【分類根拠】(1)ラットを用いた複数の優性致死試験 (経口投与)で、陰性の結果が得られている (食安委 農薬評価書 (2019)、農薬工業会 (1998))。(2)マウスの骨髄細胞を用いた小核試験で、陰性の結果が得られている (食安委 農薬評価書 (2019)、農薬工業会 (1998))。(3)細菌を用いた DNA 修復試験、細菌復帰突然変異試験で、陰性の結果が得られている (食安委 農薬評価書 (2019)、農薬工業会 (1998))。(4)哺乳類培養細胞を用いた染色体異常試験で、CHO 細胞では弱陽性 (S9+) 及び陰性 (S9-) の結果が得られているが、CHL 細胞では陰性の結果が得られている (食安委 農薬評価書 (2019)、農薬工業会 (1998))。
発がん性	【分類根拠】(1)、(2)より、ラット及びマウスの試験で腫瘍発生増加の報告があり、(3)の食安委評価結果も踏まえ、区分 2 とした。【根拠データ】(1)ラットの 2 年間慢性毒性・発がん性併合試験では、最高用量の 300 ppm 投与群で単核細胞白血病 (雄) 及び副腎褐色細胞腫発生率の有意な増加が認められた (食安委 農薬評価書 (2019))。(2)マウスを用いた 2 年間発がん性試験では、最高用量の 300 ppm で腎上皮性腫瘍の発生率増加が雄にのみ認められた (食安委 農薬評価書 (2019))。(3)発がん性試験において、ラットの雌雄で副腎褐色細胞腫、雄で単核細胞性白血病の発生頻度増加が、マ

イミノクタジン三酢酸塩	
	ウスの雌雄で腎上皮性腫瘍の発生が認められた(食安委 農薬評価書(2019))。
生殖毒性	【分類根拠】(1)~(4)より、区分 1B とした。【根拠データ】(1)ラットを用いた混餌投与による二世帯生殖毒性試験において、100 ppm で親動物に一般毒性影響(精管の上皮細胞変性/再生(雄)、遠位尿細管の細胞肥大(雌)等)、受胎率低下(P 及び F1 雌)がみられたとの報告がある。なお、受胎率低下は雄ラットに認められた精子肉芽腫に起因する精液減少によるものと考えられている(食安委 農薬評価書(2019))。(2)ラットを用いた混餌投与による二世帯生殖毒性試験において、200 ppm で親動物に精管の精液うっ滞、管腔拡張、精巢上体及び精管の黄色結節、脾絶対及び比重量増加等(P 及び F1 雄)、体重増加抑制、摂餌量減少等(P 及び F1 雌)、受胎率低下及び産児数減少(P 及び F1 雌)がみられたとの報告がある(食安委 農薬評価書(2019)、農薬工業会(1998))。(3)ラットを用いた強制経口投与による発生毒性試験において、催奇形性は認められなかったとの報告がある(食安委 農薬評価書(2019)、農薬工業会(1998))。(4)ウサギを用いた強制経口投与による発生毒性試験において、催奇形性は認められなかったとの報告がある(食安委 農薬評価書(2019)、農薬工業会(1998))。
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	【分類根拠】(1)~(3)より区分 3(麻酔作用)、(3)より区分 1(呼吸器)とした。【根拠データ】(1)ラットを用いた単回経口投与試験において、181 mg/kg~244 mg/kg 群(区分 1 の範囲)で雄又は雌に鎮静、自発運動低下、立毛、流涎がみられたとの報告がある(食安委 農薬評価書(2019))。(2)マウスを用いた単回経口投与試験において、死亡例の生じない雄 200 mg/kg 及び雌 288 mg/kg(区分 1 の範囲)で自発運動低下、歩行失調、立毛、呼吸数減少、歩行困難、間欠性痙攣がみられたとの報告がある(食安委 農薬評価書(2019))。(3)ラットを用いた単回吸入(ミスト)ばく露試験(4 時間)において、0.028 mg/L(区分 1 の範囲)で呼吸パターンの異常(雑音、ラ音、頻回呼吸)、異常姿勢(猫背姿勢)、嗜眠がみられたとの報告がある(食安委 農薬評価書(2019))。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	【分類根拠】(1)~(5)より、区分 1 の範囲から肝臓、腎臓、生殖器(男性)への影響がみられており、区分 1(肝臓、腎臓、生殖器(男性)、肝臓)とした。【根拠データ】(1)イヌを用いた混餌投与による 90 日間経口投与試験において、25 ppm(1.01 mg/kg/day(雄)、0.9 mg/kg/day(雌)、区分 1 の範囲)で腎臓影響(比重量増加及び尿細管上皮の変性/再生)が、100 ppm(3.14 mg/kg/day(雄)、2.89 mg/kg/day(雌)、区分 1 の範囲)で精巢(絶対及び比重量減少、精巢萎縮)が、250 ppm(8.34 mg/kg/day(雄)、6.9 mg/kg/day(雌)、区分 1 の範囲)で肝臓(肝細胞空胞化、ALT 増加(雌))、BUN 増加(雌)がみられたとの報告がある(食安委 農薬評価書(2019))。(2)上記(1)の追試確認として実施された 2 つのイヌを用いた混餌投与による 90 日間経口投与試験においても、より低用量の 5 ppm~10ppm(0.19~0.38 mg/kg/day、区分 1 の範囲)から精巢(精細管の萎縮、精子低形成ないし無精子症)或いは腎臓(尿細管の変性/再生)に影響がみられたとの報告がある(食安委 農薬評価書(2019))。(3)イヌを用いた混餌投与による 1 年間慢性毒性試験において、10 ppm(0.41 mg/kg/day(雄)、0.4 mg/kg/day(雌)、区分 1 の範囲)で雄に精細管萎縮が、25 ppm(1.01 mg/kg/day(雄)、1.03 mg/kg/day(雌)、区分 1 の範囲)で雌に近位尿細管上皮の変性/再生がみられたとの報告がある(食安委 農薬評価書(2019))。(4)ラットを用いた混餌投与による 2 年間慢性毒性/発がん性併合試験において、非腫瘍性病変として 100 ppm 以上(3.56 mg/kg/day(雄)、4.41 mg/kg/day(雌)、区分 1 の範囲)で精巢(精管精子肉芽腫)が、300 ppm 以上(11.3 mg/kg/day(雄)、14.2 mg/kg/day(雌)、区分 2 の範囲)で精巢間細胞過形成、血液(RBC・Hb・Ht 減少、WBC 増加(雌のみ))、肝臓(塊状肝細胞過形成(雄のみ))、腎臓(びまん性近位尿細管上皮変性、びまん性遠位尿細管上皮腫大、尿細管上皮単一細胞壊死、尿細管のう胞化、間質線維増生など)への影響がみられたとの報告がある(食安委 農薬評価書(2019))。(5)マウスを用いた混餌投与による 2 年間発がん性試験において、非腫瘍性病変として 100 ppm 以上(8.55 mg/kg/day(雄)、7.94 mg/kg/day(雌)、区分 1 の範囲)で腎臓近位尿細管上皮腫大が、300 ppm 以上(26 mg/kg/day(雄)、29.5 mg/kg/day(雌)、区分 2 の範囲)で血液(Hb・Ht 減少)、肝臓(小葉周辺性及びびまん性肝細胞肥大、ALP 増加)、腎臓(腎尿細管拡張、のう胞形成、尿円柱、石灰沈着、間質線維化、BUN 増加(雌))への影響等がみられたとの報告がある(食安委 農薬評価書(2019))。【参考データ等】(6)ラットを用いた混餌投与による 90 日間経口投与試験において、240 ppm 以上(17.5 mg/kg/day(雄)、19 mg/kg/day(雌)、区分 2 の範囲)で肝臓(肝細胞変性・壊死)、腎臓(比重量増加、糸球体線維化及び基底膜肥厚、間質結合織増殖、尿細管蛋白円柱及び上皮変性)及び雄に WBC 減少が、320 ppm(25.4 mg/kg/day(雄)、26.7 mg/kg/day(雌)、区分 2 の範囲)で雌に Hb 減少、血漿 ChE 及び TP 減少がみられたとの報告がある(食安委 農薬評価書(2019))。(7)マウスを用いた混餌投与による 90 日間経口投与試験において、240 ppm 以上(29.6 mg/kg/day(雄)、32.5 mg/kg/day(雌)、区分 2 の範囲)で肝臓(肝細胞変性・壊死)、腎

イミノクタジン三酢酸塩	
	臓(絶対及び比重量増加、慢性糸球体腎炎)及び雌に Hb 減少が、320 ppm(41.4 mg/kg/day(雄)、42.6 mg/kg/day(雌)、区分 2 の範囲)で Ht 減少がみられたとの報告がある(食安委 農薬評価書(2019))。
誤えん有害性	【分類根拠】データ不足のため分類できない。

12. 環境影響情報

イミノクタジン三酢酸塩	
水生環境有害性 短期(急性)	区分 1
水生環境有害性 長期(慢性)	区分 1
残留性・分解性	データなし
生体蓄積性	データなし
土壌中の移動性	データなし
オゾン層への有害性	データなし

13. 廃棄上の注意

- 化学品(残余廃棄物) : 都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者に、内容を明示して処理を委託する。
- 汚染容器及び包装 : 容器の内容物を完全に除去してから廃棄する。
空容器は地域の条例に準拠してリサイクル、再利用または廃棄する必要がある。

14. 輸送上の注意

国際規制

海上輸送(IMDG)

- 国連番号(IMDG) : 2811
- 正式品名(IMDG) : TOXIC SOLID, ORGANIC, N.O.S.
- 容器等級(IMDG) : II
- 輸送危険物分類(IMDG) : 6.1
- 危険物ラベル(IMDG) : 6.1
- クラス(IMDG) : 6.1
- 区分(IMDG) : 6.1
- 特別規定(IMDG) : 274
- 少量危険物(IMDG) : 500 g
- 微量危険物(IMDG) : E4
- 包装要件(IMDG) : P002
- IBC 包装要件(IMDG) : IBC08
- IBC 特別規定(IMDG) : B21、B4
- ポータブルタンク包装規定(IMDG) : T3
- 輸送特別規定-タンク(IMDG) : TP33
- 積載区分(IMDG) : B
- 特性および観察結果(IMDG) : Toxic if swallowed, by skin contact or by inhalation.
- 緊急時応急措置指針番号 : 154

航空輸送(IATA)

- 国連番号(IATA) : 2811
- 正式品名(IATA) : Toxic solid, organic, n.o.s.
- 容器等級(IATA) : II
- 輸送危険物分類(IATA) : 6.1
- 危険物ラベル(IATA) : 6.1
- クラス(IATA) : 6.1
- 区分(IATA) : 6.1
- PCA 微量危険物(IATA) : E4

特別管制区(PCA)少量危険物(IATA)	: Y644
特別管制区(PCA)数量限定物の最大積載量(IATA)	: 1kg
PCA 包装要件(IATA)	: 669
特別管制区(PCA)最大積載量(IATA)	: 25kg
CAO 包装要件(IATA)	: 676
貨物機専用(CAO)最大積載量 (IATA)	: 100kg
特別規定(IATA)	: A3、A5
ERGコード (IATA)	: 6L
海洋汚染物質	: 該当
国内規制	
海上規制情報	: 船舶安全法の規定に従う。
航空規制情報	: 航空法の規定に従う。
緊急時応急措置指針番号	: 154
特別な輸送上の注意	: 運搬に際しては、容器の転倒、損傷、落下、荷崩れ等しないように積み込み、漏出のないことを確認する。

15. 適用法令

国内法令

労働安全衛生法	: 非該当
毒物及び劇物取締法	: 劇物(指定令第2条) 1, 1'-イミノジ(オクタメチレン)ジグアニジン、その塩類及びこれらのいずれかを含有する製剤
消防法	: 非該当
外国為替及び外国貿易法	: 輸出貿易管理令別表第1の16の項
船舶安全法	: 毒物類・毒物(危規則第2, 3条危険物告示別表第1)
航空法	: 毒物類・毒物(施行規則第194条危険物告示別表第1)
港則法	: その他の危険物・毒物類(毒物)(法第21条第2項、規則第12条、危険物の種類を定める告示別表)
化学物質排出把握管理促進法(PRTR 法)	: 【改正後 令和5年4月1日以降】 第1種指定化学物質(法第2条第2項、施行令第1条別表第1) 1, 1'-(イミノジオクタメチレン)ジグアニジン=トリアセート(別名イミノクタジン酢酸塩)(管理番号: 589)(100%)

16. その他の情報

参考文献	: 17322 の化学商品(化学工業日報社) 国際化学物質安全性カード(ICSC) 独立行政法人 製品評価技術基盤機構(NITE) ERG2020 版 緊急時応急措置指針(日本規格協会)
その他の情報	: この SDS は林純薬工業株式会社の著作物です。当該製品の化学物質製品を取り扱う事業者に対して提供するものであり、安全を保証するものではありません。現時点における該当化学物質の情報を全て検証しているわけではありません。当該化学物質について常に未知の危険性が存在するという認識で、製品運搬・開封から廃棄に至るまで、安全を最優先して使用者自己の責任においてご使用下さい。当該化学物質を使用する際は、使用者自ら安全情報を収集すると共に使用される場所・機関・国などの、法規制等については使用者自ら調査し最優先させてください。国または地方の規制についての調査は、当社としては行いかねますので、この問題については使用者の責任で処理願います。当該物質の日本語による SDS と他国言語にて翻訳された SDS が存在する場合、内容の相違があるなしに関わらず日本語で記述された文書が優先され他国言語による文書は参考文書とします。